都道府県別賞一等

生命保険を知って

鳥取県　米子市立弓ヶ浜中学校　一学年
山川　涼太

生命保険とは、家族に何かがあった時のために、大勢の人がお金を出し合い、もしもの事が現実に起きた時に給付を受ける仕組みです。生命保険は、お互いのために助け合うという〝相互扶助〟の考え方から生まれたそうです。

もし、生命保険がなかったら、僕たちの生活はどうなるでしょう。一家の働き手である父や母の死亡や入院が起こると、たちまち収入と支出のバランスが崩れてしまいます。バランスが崩れると生活ができなくなったり、子供のいる家庭だと学校にも行けなくなるかもしれません。

もしものために貯蓄で備えておくのもいいのでは……。

「貯蓄は三角・保険は四角」という言葉は、生命保険を説明する時によく使われるそうです。

なぜ貯蓄は三角といわれるのか、それは万が一、途中で死亡した場合、それまでに積み立てられた元利合計が戻ってくるからです。それに比べて、生命保険は、支払った保険料に関係なく、万が一の事が起こった場合、加入したその日から保障額が受け取れます。いつ起きるか分からない、もしもへの備えは、三角の貯蓄では間に合わないことがあります。〝もしも〟は常に十分な貯蓄ができた時に起こるわけではないので、そのために四角の保険があるのです。

僕の家は母子家庭です。万が一母にもしもの事が起こったとしたら、生命保険がなければ僕たち兄弟三人は、今まで通りの生活もできなくなり、行きたい学校へ通うことも難しくなると思います。母は昔、生命保険会社で働いていたことがあり、生命保険の大切さは、よく分かっているそうです。もしもに備えて僕たちが小さい頃から生命保険に加入していると聞きました。〝万が一〟は起こらない事が一番だけど、いつ起こるか分からない〝万が一〟に備えておくことが大切だと思いました。

僕も将来、社会人になったら、今回学んだ事を生かし、万が一のために生命保険に加入して、家族皆が安心して過ごせる暮らしを送りたいと思います。